

ピエゾ療法

ピエゾ療法の実際

当院では後療法の一環として、生体の持つピエゾ現象を応用した**ピエゾ療法**(自分で勝手に命名)を行っています。

これを簡単にご説明致しますと、皮下組織が薄くて骨を触診しやすい部位に 100 円ショップで買ってきた‘足ツボ押し棒’を当てて木槌で叩いて骨に軽く痛みを感じる程度の刺激を与えるだけ、というごくごく単純な治療法です。

ちなみに、お相撲さんの骨が丈夫なのは毎日四股を踏んで骨に刺激を与えているからだと言われています。

ピエゾ現象とは

“ある物質に圧力を掛けると電気が流れるという現象のこと”

骨を叩くとその圧力で叩かれた骨の中に電気が生まれます。そしてこの電気は電流(発見者の名前をとってピエゾ電流と呼ばれます)となって骨に伝わります。その結果**骨を吸収する破骨細胞**と**骨を作る骨芽細胞**の働きが活発になり骨が丈夫になるのだそうです。

人間の骨にも新陳代謝があり 5～7 年位かかり全部入れ替わります。そのメカニズムに関与しているのが**破骨細胞**と**骨芽細胞**です。**破骨細胞**は 24 時間体制で働いて骨の中からカルシウムなどを外へ放り出します。また逆に**骨芽細胞**は血液の中からカルシウムなどをどんどん拾って骨に付けて行きます。

このピエゾ現象を治療に応用し、理論通りの効果が出てくれるのであればお年寄りの骨粗鬆症は言うまでもなく変形性の関節症などにも効果があるはず？減ってしまった部分は再生し盛り上がり、余分に出っ張ってしまった部分は次第に溶けてなくなる。そうなると関節のアライメント(かみ合わせ)が整えられ関節の曲げ伸ばしが楽になるはずだし、また関節リウマチに対しても(投薬治療との併用が前提なのですけど)変形を最小限に抑える効果があるのではないかなどと推論しています。

治験

実際に臨床の場でこの**ピエゾ療法**を行ってみると、理論的な裏付けをもって説明する事はできませんが、骨に作用するだけでなく痛みを抑えたり、血行促進、また手足の冷感、シビレの軽減や改善にも効果があるようです。

自分自身の治験では腱鞘炎には特に著効がありました。自分でツボ押し棒を手首に当てて息子に木槌で叩いてもらったら翌日には手首の痛みが消えていました。ただ叩いてもらっているときは涙が出るほど痛かった、やってもらっている立場上文句は言えませんでした。(泣)